

待機的開心術における術前自己血貯血の有用性

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-02-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 岩朝, 静子 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.20780/00032079

主論文の要旨

待機的開心術における術前自己血貯血の有用性

東京女子医科大学心臓血管外科学教室

(指導：山崎健二教授)

岩朝 静子

東京女子医大雑誌 第86巻 第5号 183頁～190頁（平成28年10月25日発行）に掲載

【要旨】

心臓手術において、出血した場合に投与する準備血液は、従来より貯血式自己血と同種血 (Allogeneic blood transfusion, ATF) がある。前者は、手術に備えて術前から計画的に貯血する自分の血液で、一方同種血は、他人の献血から成り立つ血液である。医学的には多くの診療科で、免疫学的・感染性副作用を減少させるという利点から術前自己血貯血が有効と報告されてきた⁽¹⁾が、その煩雑さからあまり普及していなかった⁽²⁾。さらに、平均寿命の高齢化に伴い、国内の心臓血管外科手術は増加傾向である⁽³⁾が、同種血供給量＝献血量は減少傾向である⁽⁴⁾。この社会的背景からも、貯血式自己血をより普及させることが必要と考えられる。そのような理由から、貯血式自己血を医学的のみならず、医療経済的な側面からも検討し、同種血輸血にまつわるさまざまな問題を解決する一手法として、今一度普及に努めたいと考える。